

人権さんだ

8月号

令和8年(2026)

No. 569

かね
「平和の鐘」を鳴らし平和を祈ろう

《問い合わせ》
健康福祉部 人権共生推進課
TEL : 559-5148 FAX : 563-7776
E-mail : jinken_u@city.sanda.lg.jp



昨年の「平和を考える市民のつどい」では、三田少年少女合唱団や三田ユネスコ協会をはじめ、市民の皆さんによる平和への祈りとともに、美しい鐘の音が響き渡りました。

平和の鐘について

郷の音ホール（三田市総合文化センター）の敷地内にある「平和の鐘」をご存じですか？

この鐘には、これまで歩んできた平和の歴史とともに、人々の強い願いが込められています。

今回は「三田ユネスコ協会」の皆さんに、平和の鐘の誕生秘話や、身近な暮らしから広がる平和への想いについてお話を伺いました。

Q 郷の音ホールにある「平和の鐘」は、どのようなきっかけでできたのですか？

A 今年で三田ユネスコ協会は設立62年を迎えます。この鐘は50周年の記念事業として、会員や市民の皆さんから寄付を募り建立したものです。鐘ができる前は、毎年7月19日に市内各地のお寺にお願いし、一斉に鐘を鳴らしていただいていたのです。

7月19日は「三田空襲」（※3ページに関連記事あり）があった日です。同時に昭和22年日本で世界初の民間ユネスコ協会（仙合）が誕生したことに由来する「民間ユネスコ運動の日」でもあり、私たちにとって非常に大切な日となっています。

人権さんだアンケート

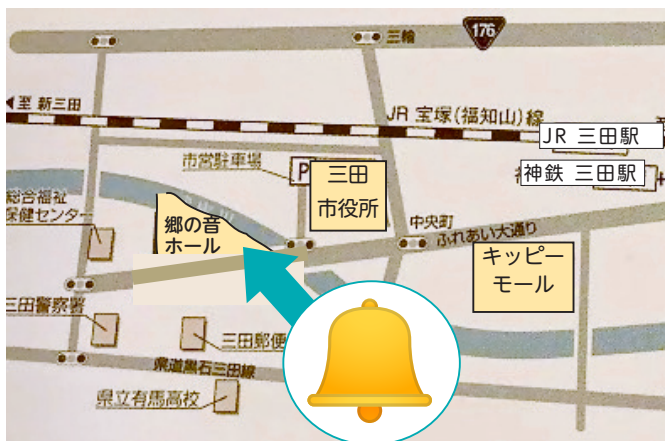
ご感想や今後取り上げてほしいテーマをお寄せください。



Q 誰でも鳴らすことができますと伺いました。

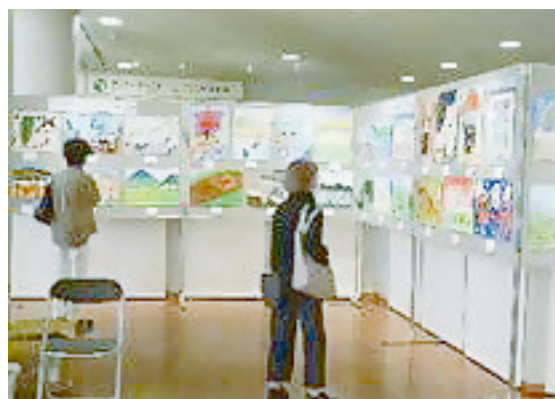
A はい、どなたでも鳴らすことができます。鐘は三田市に寄贈しており、鐘を鳴らす場合は郷の音ホールの事務室で鍵を借りる必要があります。私たちも毎月開催している理事会の会議前に平和を願って鳴らしています。

2年前にロシアとウクライナの戦禍が始まった際には、私たちの呼びかけに応じて集まった約100人の市民の皆さんと共に鐘を鳴らし、募金を集めました。「幸運や平和を呼ぶ鐘」として、ぜひ市民の皆さんも気軽に鐘を鳴らしてほしいです。



平和の鐘の設置場所

Q 三田ユネスコ協会は、地域に根ざした活動や、こども向けの行事も多いですね。



わたしの町のたからもの絵画展
(ウディタウン市民センター)

A 前裏千家家元の千玄室さんがユネスコ親善大使を務められているご縁から、毎年「茶の湯体験」を開催しています。また、夏休みには「わたしの町のたからもの絵画展」の作品を募集しており、毎年こどもたちから約200点もの温かい作品が集まります。絵画展の期間中は、その中から選ばれた50点ほどの作品を市民センターで展示しています。その他に国境を越えた活動として、書き損じハガキを集めて募金に換え、発展途上国のこどもたちに学ぶ機会を届ける「世界寺子屋運動」などにも取り組んでいます。

Q 最後に、未来へ向けた「平和」へのメッセージをお願いします。

A 「平和」と聞くと世界規模の大きな話に思えますが、決してそうではありません。一番の土台にあるのは「家庭」や「地域」の平和で、こどもたちの笑顔、また安心して眠れることが大切です。隣近所の人を思いやり、みんなが少しずつ優しい気持ちになることで、「心のゆとり」や「身近な繋がりが」生まれ、平和のとりでになります。一人一人が心にゆとりを持ち、お互いを気に掛け合えるような温かい三田市を、皆さんと共に作って行きたいと考えています。

現在、一緒に活動に参加していただける方を募集しています。ぜひ一度ご参加をお願いします。



三田ユネスコ協会のみなさん

ユネスコ協会

●ユネスコ (UNESCO)
日本が戦後最初に加盟した国連機関はユネスコです。

今年は日本のユネスコ加盟75周年に当たります。ユネスコは教育、科学、文化での協力と交流を通じた国際平和と人類の共通の福祉の促進を目的としています。我が国は国内外において着実にユネスコ活動を広げてきました。

●三田ユネスコ協会

1964 (昭和39) 年に産声を上げ、「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かねばならない」というユネスコ憲章を草の根運動で広げていくという信念のもと、活動しています。特に民間ユネスコ運動方針となる、

1. 「平和の文化」実践活動
2. 世界寺子屋運動
3. 世界遺産・地域遺産活動を三つの柱として、会員の親睦を図りながら、地域に同じ志をもつ諸団体と連携し国際平和と人類共通の福祉のために活動しています。

△問い合わせ先▽

三田ユネスコ協会

会長 大原 090 (8521) 8334
事務局 木虎 090 (9054) 4481

しゅわつうやく
手話通訳
ようやくひつき
要約筆記

あり

日時 令和8年8月22日(土)
10:30～12:30 受付 10:00～
場所 三田市まちづくり協働センター(多目的ホール)
テーマ 部落差別について考える

一時保育
要予約

「あした元気になあれ」

講師 みえ人権教育・啓発研究会 代表 松村 智広さん

【申込方法】 右記二次元コードからお申し込みください。締切 8月10日(月)

<https://logoform.jp/form/hyogo-sanda/1684169> (電話・FAX可)

※ 一時保育の申し込みは、8月7日(金)までをお願いします。

- ・どなたでも参加できます。当日、会場に直接お越しください。
- ・会場には駐車場がありますが、台数に限りがあり混雑が予想されますので、できるだけ乗り合わせをするか、公共交通機関をご利用ください。
- ・当日、午前7時の時点で三田市に気象警報(レベル3大雨警報・レベル3河川氾濫警報など)が発表されている時は、開催を中止します。

◆問い合わせ先: 三田市人権を考える会(事務局: 人権共生推進課内) TEL: 559-5148 FAX: 563-7776
後援: 三田市・三田市教育委員会



令和8年度 市民企画講座のお知らせ

【テーマ】「ジブリで考える人権」

【日時】8月6日(木) 13時30分開始

【場所】まちづくり協働センター 講座室

【講師】坂田 良久さん(人権エデュ.COM代表)

【定員】30名先着(申込はFAXのみ 567-1508)

【主催】三田市消費者協会

【共催】三田市人権を考える会

(事務局: 人権共生推進課内) TEL: 559-5148



くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約制)

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員による定例人権相談(予約制)

TEL 559-5148 FAX 563-7776
《次回相談日》8月27日(木) 13時～16時

三田市非核平和都市宣言

三田市は、二度とあの悲惨な戦争を繰り返すことのない世界を創り広めるため、平成元年3月に非核平和都市宣言を行いました。

(全文)

平和 ― それは全人類共通の願いです。

私たちは、戦争の悲惨さ、残酷さを決して忘れてはなりません。

しかし、世界各国では今なお武力紛争が絶えず、軍拡競争は恐るべき核兵器を次々と生み出してきました。たび重なる核実験による環境破壊は地球的規模に達し、さらに核開発は宇宙空間にまで及ぼうとしています。今や核戦争を防止し、すべての核兵器を廃絶することは、人類の存亡にかかわる最も緊急で重要な課題です。

ここに三田市は、核兵器の廃絶と軍縮を全世界に訴えとともに、世界平和実現に向かって不断の努力を続ける非核平和都市であることを宣言します。

平成元年3月28日 三田市

平和を考える市民のつどい

～今、非戦の誓いを次世代につなぐ～

【場所】三田市総合福祉保健センター
(多目的ホール)

【日時】8月8日(土) 13:30～16:00

・三田少年少女合唱団と

ドイツ少年少女合唱団による平和の歌

・講話「チャンスの前髪をつかめ
-ヨコのアメリカ大陸平和行脚-」

ネバーアゲインキャンペーン事務局

代表 塩川(北浦)葉子さん

・上映 平和を考えるドキュメンタリー作品

「三田空襲を通じた戦争記憶の継承」&報告会

元関西学院大学総合政策学部津田ゼミ所属

伊東 菜月さん

・平和の鐘を鳴らそう!

【定員】先着200名(当日参加可)

自分の多様性を広げる出会い

三田市立三田幼稚園教諭 秋田 美奈子さん



一人一人の違いに気付く

私が幼稚園教諭として採用されて22年。その間、3人のこどもを育てながら、保育の現場でこどもに関わってきました。同じ家庭で育った我が子でさえ一人一人に違いがあり、ましてや、幼稚園という集団の中では、その違いはより大きく多様に感じられます。

こども達は、性格や得意なこと、苦手なこと、育ってきた環境など、全てが異なります。言葉で伝えるのが得意な子もいれば、表情や行動で気持ちを表す子もいます。そうした多様なこども達との関わりの中で、私は、「二人一人の違いを認めること」の大切さを強く感じるようになりました。しかし、以前の私は、集団生活の

中で、「みんなと同じようにできること」を求めすぎていました。うまく言葉で伝えることが苦手なこどもに対しても、その子の内面を理解しようとせず、表に見える行動だけを見て注意してしまうこともありました。そうした経験を振り返る中で、私は本当の意味で、こどもと向き合えていなかったのだと気付かされました。

Aさんとの出会いを通して

近年、外国にルーツのあるこども達が増え、私の園にも、外国にルーツのあるAさんが入園してきました。その出会いから、私は新たな気付きを得ました。互いに生活や言葉の違いに戸惑う様子が見られる中で、私はこども達が育ってきた背景を尊重しつつ、Aさんには日本で生活していく上で必要なことをどこまで教え

るべきか、日々悩んでいました。

そんな中、クラスのこども達には自らAさんの国の言葉や文化に興味をもち、調べたり、関わりようとしていたりする姿が見られるようになりました。次第に、挨拶をする時には、自然と日本語とAさんの国の言葉、両方の言葉で毎日挨拶をするようになりました。Aさんに教えることを優先しようとしていた私とは対照的に、自ら学び、関わる方法を見つけ出したこども達に遊び、一緒に生活する中で、こども達の間には、自然とつながりが生まれ、自然とつながる姿が見られました。その姿から私は、こども達がAさんを「外国の子」としてではなく、「二人の友達」として、Aさん自身を受け止めていたのだと気付かされました。

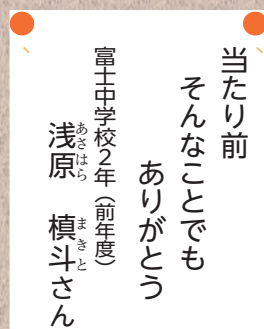
違いを認め合う大切さ

多様性とは、単に「違いがある」という事実ではなく、その違いを尊重し合うことに意味があるのだと思います。そして、その土台となるのが人権であり、一人一人が大切にされ、自分らしく過ごせる環境であると感じています。

幼稚園という小さな社会で育まれる「違いを認め合う力」は、こども達がこれから生きていく社会において、きっと大きな力になるはずです。これからも私は、こども一人一人との出会いを大切に、その中で得た気付きを次へとつなげながら、こども達が安心して自分らしさを発揮できる関わりを大切に続けていきたいと思います。

令和7年度
ラブピース4コマまんが受賞作品

「大好きなおばあちゃん」

三田学園中学校1年（前年度）
奥野 仁さん令和7年度
人権ポスター・標語受賞作品富士中学校2年（前年度）
浅原 慎斗さん高平小学校3年（前年度）
寺本 圭吾さん